

株式会社京都産業振興センター

第1 法人の概要

1 代表者

代表取締役社長 辻智之

2 所在地

京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

3 電話番号

075-762-2633

4 ホームページアドレス

<https://www.miyakomesse.jp/> (京都市勸業館)

5 設立年月日

平成5年4月27日

6 資本金

90,000千円 (うち本市出資額 54,000千円, 出資率 60.0%)

7 事業目的

京都市勸業館 (美術工芸ギャラリー含む。) の管理運営, 展示会, 見本市等の企画開催及び誘致ほか

8 業務内容

- (1) 京都市勸業館 (美術工芸ギャラリー含む。) の管理運営
- (2) 京都伝統産業ふれあい館の管理 (公益財団法人京都伝統産業交流センターとの連携による。)
- (3) 展示会, 見本市等の企画開催及び誘致

9 所管部局

産業観光局産業企画室 (TEL075-222-3325)

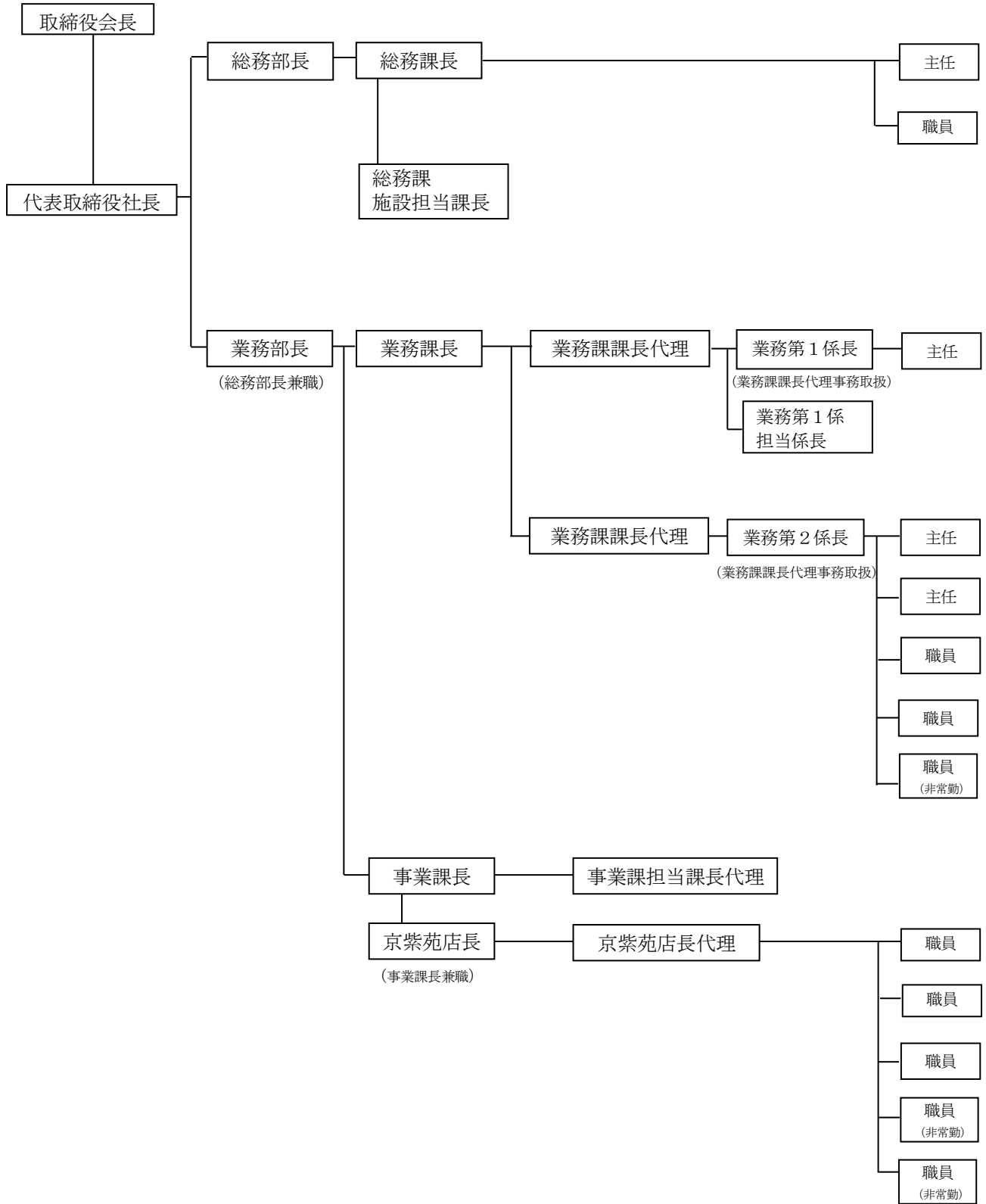
10 役員名等

- (1) 取締役会長
山本達夫 (産業観光局長)
- (2) 代表取締役社長
辻智之
- (3) 取締役
上林秀行, 兒島宏尚, 渡邊隆夫, 林史己, 大同一生, 坂本勝, 武田淳 (産業観光局産業企画室長)
- (4) 監査役
外村弘樹, 川越とし子

11 常勤職員数

20人 (うち本市派遣職員0人)

12 組織機構



第2 経営状況

1 平成30年度決算

(1) 事業報告

ア 京都市勧業館の指定管理

(ア) 展示場の利用状況

面積稼働率 52.85%，利用件数 513 件

(イ) 会議室の利用状況

稼働率 39.87%

イ 京都市伝統産業ふれあい館ミュージアムショップ「京紫苑」の運営

ミュージアムショップ「京紫苑」商品売上 44,924 千円（消費税等除く。）

ウ 美術工芸ギャラリー（勧業館内）の運営

稼働延べ日数 485 日（485 日／716 日），稼働率 67.73%

(2) 財務諸表

貸借対照表

平成31年3月31日現在

（単位：千円）

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	[707,644]	流動負債	[179,262]
現金及び預金	667,603	買掛金	3,004
売掛金	568	未払金	78,811
商品	1,149	未払消費税等	3,233
前渡金	16	未払法人税等	6,766
未収入金	38,478	未払費用	860
貸倒引当金	△170	前受金	78,694
固定資産	[25,072]	預り金	2,388
（有形固定資産）	(24,502)	賞与引当金	5,505
建物	17,764	固定負債	[25,753]
構築物	812	退職給付引当金	22,753
器具・備品	5,305	預り保証金	3,000
その他の有形固定資産	621	負債合計	205,015
（無形固定資産）	(570)	純資産の部	
電話加入権	306	株主資本	[527,701]
ソフトウェア	265	資本金	(90,000)
		利益剰余金	(437,701)
		利益準備金	180
		その他利益剰余金	
		付帯設備改善積立	50,000
		別途積立金	320,000
		繰越利益剰余金	67,521
		純資産合計	527,701
資産合計	732,716	負債及び純資産合計	732,716

損益計算書
平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額	
【経常損益の部】		
(営業損益の部)		
売上高		698,551
売上原価		233,704
売上総利益		464,847
販売費及び一般管理費		447,778
営業利益		17,069
(営業外損益の部)		
営業外収益		
受取利息及び配当金	288	
その他	9,795	10,083
営業外費用		
その他	383	383
経常利益		26,769
【特別損益の部】		
特別利益		0
特別損失		5,717
税引前当期純利益		21,051
法人税，住民税及び事業税		9,586
当期純利益		11,465

株主資本等変動計算書
平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位：千円)

	株主資本						純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益剰余金				
			20周年 記念事業 積立金	付帯設備 改善積立 金	別途 積立金	繰越利益 剰余金	
前期末残高	90,000		180	50,000	270,000	106,056	516,236
当期変動額							
剰余金の配当							
剰余金の配当に伴う利益 準備金の積立							
積立金の積立					50,000		50,000
積立金の取崩						△50,000	△50,000
当期純利益						11,465	11,465
当期変動額合計	－	－	－	－	50,000	△38,535	11,465
当期末残高	90,000	－	180	50,000	320,000	67,521	527,701

2 令和元年度事業計画及び予算

(1) 経営指標

ア 勸業館

- (ア) 展示場 年間面積稼働率 53.5%以上
- (イ) 会議室 年間区分稼働率 44.0%以上
- (ウ) 美術工芸ギャラリー 年間区分稼働率 63.0%以上

イ ミュージアムショップ京紫苑

年間売上額 2,700 万円以上

ウ 京都市への納付額

年間 1 億 9,100 万円

(2) 事業計画

ア 勸業館事業

(ア) イベントサポートサービスの充実

単なる貸館業務だけでなく、施設利用者の多様なニーズに対応するため、当社社員が営業時だけでなく成約後も催事運営の企画、提案を行い、イベント等の魅力を最大限に引き出せるよう、きめ細やかなイベントサポートサービスを提供する。

(イ) WEB 広告の実施と SNS 活用拡大

- a 主催者が会場を探す手法はインターネットによる検索が多いことから、WEB 広告による発信を行う。また、WEB 広告から得る見込み顧客の属性を把握し、営業活動につなげる。
- b 会議室の活用方法や価格を SNS で発信することで、若者をはじめ幅広い層の利用につなげる。

(ウ) 企画提案型営業による新規開拓

- a 夏季（主に 7、8 月）における新規 BtoC 催事の開拓
- b コンベンション及びエキシビション誘致を中心に、オール京都体制による MICE 取組との連携強化、岡崎 MICE の推進
- c 首都圏での商談会への参加
- d 当館の強みや大型イベント催事の開催実績等を積極的に PR するため、プロモーションビデオ等を制作し、営業で活用するとともにホームページでの発信を行う。

(エ) 調整型営業の展開

- a 継続利用いただいている固定客の維持、拡大
- b 大型展示、見本市を対象とした平日利用の促進

イ ふれあい館連携事業

(ア) 企画プロジェクトチームの設置

京都産業振興センター社員と伝統産業交流センター職員等による企画プロジェクトチームを設置し、京都伝統産業ふれあい館との連携強化とミュージアムショップ京紫苑の売上強化の検討を行う。

(イ) ホテル等との伝統産業振興に係るコラボ事業

市内ホテル等の企画展、記念事業において、若手職人の作品を発信する機会を提供いただくことなどを通じて、伝統工芸の情報発信及び若手職人の販路拡大並びに京紫苑、ふれあい館の PR につなげる。

(ウ) 京紫苑等改修

ふれあい館の改修とあわせ、京紫苑の内装改修及び什器等の充実を行う。あわせて、1 階東西出入口の什器を充実し、来館者への PR を強化する。

- a レイアウト変更に伴うカウンター、什器の充実、カーペット張替え等
- b 1 階東西出入口の什器を充実

ウ その他事業

(ア) 美術工芸ギャラリー

良好な施設環境と廉価な使用料であることを広く周知し、さらに多くの方に利用いただけるよう努める。また、使っていただきやすいように割引制度を継続し、岡崎の芸術文化発信拠点となるよう努める。

(イ) レストラン事業

増加する岡崎地域への観光客を取り込むために、季節感のある料理の提供やメニューの改善を進める。春、秋にはレストラン北側の広場でオープンカフェを実施し、ライブスクエア@みやこめっせでは屋台を出してイベントを盛り上げる。

(ウ) 施設、設備の整備、ユニバーサルデザインの強化等

- a ふれあい館の整備に伴う館内案内及び外国人観光客に対応するための当館内外の案内表示の充実を行う。
- b 市の改修基本計画とも連動した迅速な修繕を実施する。
- c 令和2年度に、ロビーにおけるトイレの洋式化率及び温水洗浄便座化率とともに100%とするため、改修を進める。
- d ふれあい館改修によるレイアウト変更とあわせ、京紫苑の内装改修及び什器等の充実を行う。あわせて1階東西出入口の什器を充実し、来館者へのPRを強化する(再掲)。

エ 自主事業

(ア) 産業振興、文化発信

a 事業1「みやこめっせ「経済文化講演会」(7月)」

今年度は7月2日に、「明治の歴史から現在・未来を考える(仮題)」をテーマに加来耕三氏の講演を行う。(定員300名)

b 事業2「京ものフェスティバル(3月)」

「京都市伝統産業の日」関連事業として、伝統工芸品の展示や京都の老舗が多数出展する物産展を3月に開催する予定。

c 事業3「みやこめっせウェルカムプラン(随時)」

修学旅行生等を対象に、伝統工芸品の製作体験をしてもらうプランとして、旅行会社の協力を得て実施する。

d 事業4「桜まつり(4月)」

地域の方や観光客のみなさんにゆっくりと春のひと時を楽しんでいただくとともに、市内芸術大学生の発信の場として実施する。(予定来場者数1,000人)

(イ) 賑わい創出、地域活性化

a 事業5「わくわく電車王国(8月)」

今年度は会場となる第2展示場の一般利用がない8月9日からの10日間程度とする。(予定来場者数(全期間計)22,000人)

b 事業6「Live Square @ MIYAKOMESSE」

みやこめっせ中央広場で、春秋の午後に若手ミュージシャンやパフォーマーにライブを行ってもらい、二条通の賑わいづくりに貢献する。(年10回(4月から9月)開催)

(3) その他の取組

ア 社員研修

社員の意欲、能力の向上を目指して全社員を対象とした研修を計画的に進める。

(ア) 全体研修(教養研修)

(イ) 管理監督者研修

(ウ) 業務研修

(エ) 自己研修

(オ) 業績評価シートによる評価制度の導入

イ 第三者機関による経営評価の実施

外部の第三者専門家の意見を経営に反映するため経営評価委員会を設置しており、令和元年度も同委員会を2回開催する予定。

(4) 予算

予定損益計算書

平成31年4月1日～令和2年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額
【経常損益の部】	
(営業損益の部)	
売上高	687,000
売上原価	224,800
売上総利益	462,200
販売費及び一般管理費	457,500
営業利益	4,700
(営業外損益の部)	
営業外収益	9,800
営業外費用	400
経常利益	14,100
【特別損益の部】	
特別利益	0
特別損失	0
税引前当期純利益	14,100
法人税，住民税及び事業税	0
当期純利益	14,100

(参考1) 財務状況の推移

(単位：千円)

		H28 (決算)	H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (予算)
損益計算書	売上高	937,683	903,598	698,551	687,000
	経常利益	61,601	41,995	26,769	14,100
	当期利益	34,363	19,456	11,465	
	減価償却前利益	39,932	26,131	17,323	
貸借対照表	総資産	743,969	745,788	732,716	
	総負債	245,389	229,551	205,015	
	純資産	498,580	516,236	527,701	

(参考2) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		H28 (決算)	H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (予算)
委託料	「京都館」管理運営	54,630	47,838		

第3 経営評価結果

1 所管局による経営状況の全般評価

財務面	<ul style="list-style-type: none"> 京都館の閉館に伴い、売上総利益、営業利益、経常利益が平成29年度を下回ることとなったが、収支は安定して黒字を計上しており、経営努力については、大いに評価できる。
事業面	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度は、大型の催事が誘致できなかったことによる稼働率の低下や7、8月の酷暑と台風等の影響により来場者数が減少したものの、営業努力の結果、当初目標の53%には僅かに及ばなかったが、稼働率は52.85%となり、京都産業の振興に大きな役割を果たしたと評価できる。

2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

財務面	<ul style="list-style-type: none"> 入居していたビルの閉館に伴い、平成30年3月に東京におけるアンテナショップ京都館を閉館した。その影響もあり平成30年度は黒字決算は維持したものの減収減益となった。 増収増益を目指し、引き続き京都市勧業館の稼働率や収益力の向上に取り組むことが重要である。
事業面	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度は災害や猛暑等の集客に不利な条件がある中ではあるが、これまで順調に推移してきた京都市勧業館の稼働率や収益が伸び悩んだ。魅力的な展示を誘致し、施設の稼働率、顧客満足度を高め、収益増を目指していく必要がある。